

うたごよみ

# 曾於文藝

「題字」  
末吉文化協会会長  
瀬戸口 淳 氏

## 俳句

### 末吉俳句会

はつと歩を止めて聞き入る初河鹿  
古藤 美奈子

水害に耐へし隧道岩たばこ  
泊 康

滝しぶき浴びて一日や旅気分  
宮路 生大子

## 大隅俳句会

バスを待つ文字摺草を目で追ひて  
河南 ミホ

毒だみの名に逆らひて花清し  
川崎 綾子

ねじれ花パークゴルフの球走る  
中島 玉水

## 短歌

### 末吉山茶花短歌会

博多帯きりりと締めて自ずから  
身の引きしまる三味の音に舞う  
福宿 みち子

袋かけし十房ほどの枇杷の実は  
枝おもおもと熟る庭隅  
松崎 さち江

冬の間は垣越しに見し隣家の来  
客わからず若葉茂りて  
小園 セツ子

## 大隅短歌会

山裾のひとかたまりの集落へも  
の売る車日暮れを急ぐ  
安藤 フヂ子

福島に住む孫らへ送る草餅のよ  
もぎ摘みつつ震災おもう  
伊勢 タミ子

M・R・Iの検査を了へて帰り  
道車窓に入る風ははつ夏  
川辺 玉枝

## 財部短歌会

車中よりの遠近の山々其の緑の  
濃淡はた黄色花にも勝る  
瀬戸口 芳子

道路脇紫陽花の花鮮やかに梅雨  
なる風情醸し出しをり  
富山 治雄

母訪はむと刈る苜蓿の花かげに  
老い初めし妻のなほあどけなく  
山城 忠

畦道のモグラ防止に廃油まく  
教へし人の言葉を信じて  
児玉 次雄

どくだみの強き匂ひを忘れさす  
真白き十字のやさしき花は  
杉村 リカ

母の日に娘が贈りし紫陽花は色  
変りつつ咲きつづけをり  
川俣 若

あじさいは白くふふみて咲きは  
じめのちに盛りを真青に染めぬ  
井上 澄子

一定のリズム残して電車行く夜  
の帳を灯り運びて  
祝迫 道雄

妻が眠る故郷空懐しき遠く離れ  
し子の家に住み  
橋口 貞男

## 薩摩狂句

### にがごい会末吉支部

閑潰し 行たパチンコじゃ  
大損げつ  
古川 一幹

不景気が 若け閑人ぬ  
増らけつ  
南川 くにお

多忙時き 閑な婆さあ  
のそつ来つ  
鈴木 一泉

## 大隅薩摩狂句会

生きなれば難儀え言ながら長寿酒  
福元 多喜子

捻ってん何も出ちゃこん難儀え  
句題  
新屋 涼子

親光ち難儀え棚田を作っ付けつ  
津留 群志



三連轟 (財部町)